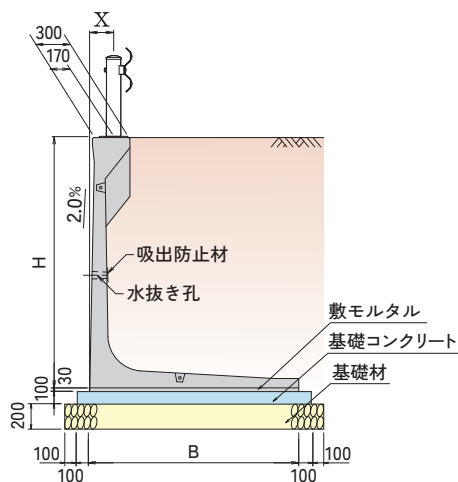


標準施工図

■ 施工断面図



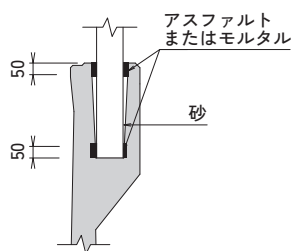
■ 数量表

(10m当り)

呼び名 H	B(mm)	X (mm)	基礎コンクリート (m ³)	基礎型枠 (m ²)	基礎材 (m ²)	敷モルタル (m ³)
1000	1150(1220)	171	1.35(1.42)	2.00(2.00)	15.5(16.2)	0.345(0.366)
1250	1300(1380)	176	1.50(1.58)	2.00(2.00)	17.0(17.8)	0.390(0.414)
1500	1350(1420)	181	1.55(1.62)	2.00(2.00)	17.5(18.2)	0.405(0.426)
1750	1400(1480)	186	1.60(1.68)	2.00(2.00)	18.0(18.8)	0.420(0.444)
2000	1500(1650)	191	1.70(1.85)	2.00(2.00)	19.0(20.5)	0.450(0.495)
2250	1650(1800)	196	1.85(2.00)	2.00(2.00)	20.5(22.0)	0.495(0.540)
2500	1800(1950)	201	2.00(2.15)	2.00(2.00)	22.0(23.5)	0.540(0.585)
2750	1950(2120)	206	2.15(2.32)	2.00(2.00)	23.5(25.2)	0.585(0.636)
3000	2100(2280)	211	2.30(2.48)	2.00(2.00)	25.0(26.8)	0.630(0.684)
3500	2330(2600)	221	2.53(2.80)	2.00(2.00)	27.3(30.0)	0.699(0.780)
4000	2620(2900)	231	2.82(3.10)	2.00(2.00)	30.2(33.0)	0.786(0.870)

※ () 内の数値は粘性土用を示します。

■ 支柱固定方法

支柱設置穴充填材料表(1箇所当り) 単位 m³

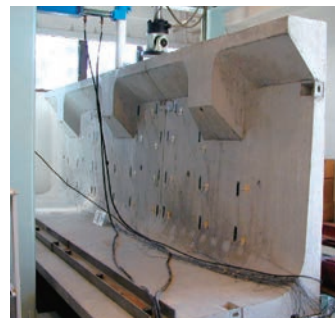
アスファルト又はモルタル	砂
0.002	0.004

■ 衝突荷重実物構造実験

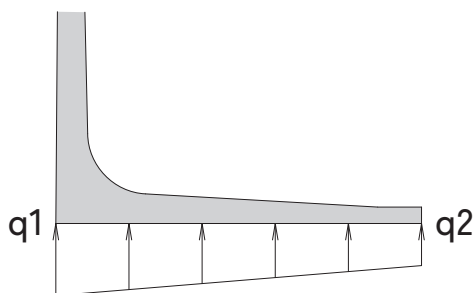
『道路土工擁壁工指針』に示してある防護柵の衝突荷重30kN (B・C種) に対して、ガードクリフ部材の強度の安全性を確認しています。

要領: ガードクリフのH-1750(L=2.0m)3本を連結し中央の製品にガードレール支柱を設置する。支柱に水平に30kNの荷重を作用させ、たわみ量、荷重の分布状態などを測定。

■ 衝突荷重載荷状況



地盤反力度

単位 kN/m²

- 土質条件が砂質土、()内は粘性土の場合の安定計算から求まる値です。
- 現地地盤の長期許容支持力度が常時の地盤反力度を上回る必要があります。
- 現地地盤の短期許容支持力度が衝突荷重作用時の地盤反力度を上回る必要があります。

呼び名	常時		衝突荷重作用時	
	q1	q2	q1	q2
1000	33(34)	23(21)	72(66)	—
1250	42(43)	24(21)	89(82)	—
1500	54(55)	22(19)	99(94)	—
1750	67(67)	19(15)	110(105)	—
2000	78(77)	17(15)	116(104)	—
2250	88(87)	17(15)	154(136)	—
2500	98(96)	17(14)	148(136)	—
2750	107(105)	17(15)	149(137)	—
3000	117(115)	18(14)	151(141)	—
3500	140(134)	14(14)	167(152)	—
4000	159(153)	14(13)	179(165)	—